

資料2（参考資料3）

■学校規模による学校教育への影響について

（1）小規模校化することによる課題

【教育指導面】

- ・ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合う機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。
- ・ 学年1学級の場合、学級間の相互啓発の取組ができない。
- ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じる。
- ・ グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取れない場合がある。
- ・ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まる。
- ・ 人間関係や相互の評価等が固定化する傾向にある。
- ・ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。
- ・ 学校全体での組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じる。

【学校運営面】

- ・ 教職員数が少ないため、経験・教科・特性などの面でバランスのとれた配置ができない。
- ・ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等について、相談・研究・協力・切磋琢磨する機会が少なくなる。
- ・ 教職員一人に校務分掌が集中する。
- ・ 教員の出張・研修等の調整が難しい。
- ・ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置できない。

（2）大規模校化することによる課題

【教育指導面】

- ・ 児童生徒一人ひとりに目が行き届きにくい。
- ・ 学校行事や部活動において、児童生徒一人ひとりの個別の活躍の場が少なくなる。
- ・ 学年内・異学年間の交流が不十分になる。

【学校運営面】

- ・ 教職員相互の連絡調整がとりづらくなる。
- ・ 施設設備の利用の面から、教育活動に一定の制約が生じる場合がある。